

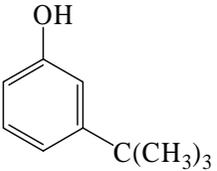
K-1807の類似物質表

化合物名 (CAS番号)	構造式	官報公示 整理番号 (K-番号)	分解度 (%)	分解 判定 (年)	分配係数 (log Pow)	LC50 mg/L (ヒメダカ)	濃縮倍率	濃縮 判定 (年)
酸化鉛(II) (1317-36-8)	PbO	1-0527 (K-434)				>100 (48hr)	1995年実施 1区(400µg/L) : 9.1~24 2区(40 µg/L) : <43 脂質含有率 3.5%	高濃縮性 ではない (1995)
四三酸化鉛 (1314-41-6)	Pb ₃ O ₄	1-0527 (K-436)				>10.0 (48hr)	1996年実施 1区(400µg/L) : 8.6~237 2区(40 µg/L) : <78 脂質含有率 4.0%	高濃縮性 ではない (1996)
硝酸鉛 (10099-74-8)	Pb(NO ₃) ₂	1-0488 (K-1632)				16.4 (96hr)	2002年実施 定常状態における濃縮倍率 1区 : 160 2区 : 210 脂質含有率 開始前 2.37% 終了後 3.21%	高濃縮性 ではない (2002)
2-エチルヘキサン酸 鉛塩 (301-08-6)		2-0615 (K-1807)	標準(4W) 2007年実施 BOD 102, 101, 94 (99)		適用外物質			

K - 1808の類似物質表

化合物名 (CAS番号)	構造式	官報公示 整理番号 (K-番号)	分解度 (%)	分解 判定 (年)	分配係数 (log Pow)	LC50 mg/L (ヒメダカ)	濃縮倍率	濃縮 判定 (年)
ジメチルジチオカルバ ミン酸ナトリウム (128-04-1)		2-1249 (K-926)	標準(4W) 1990年実施 BOD 0, 0, 6 (2) HPLC 63, 67, 69 (66) 〔一部変化し、二硫化炭素及び ジメチルアミンを生成し、残留 した。〕	難分解性 (1990)	/	/	二硫化炭素(難分解、低濃 縮)及びジメチルアミン 良分解)から類推	高濃縮性 ではない (1993)
ジエチルジチオカルバ ミド酸亜鉛 (14324-55-1)		2-1843 (K-1289)	標準(4W) 1998年実施 BOD 0, 0, 0 (0) HPLC 41, 35, 33 (37) 〔一部変化し、二硫化炭素及び ジエチルアミンを生成し、残留 した。〕	難分解性 (1998)	/	/		
ビス(ジブチルジチオ カルバミン酸)亜鉛 (136-23-2)		2-2122 (K-1299)	標準(4W) 1998年実施 BOD 6, 5, 3 (5) HPLC 3, 1, 2 (2)	難分解性 (1998)	/	/		
ビス(ジブチルジチオ カルバミン酸)ニッケル (13927-77-0)		2-1247 (K-1808)	標準(4W) 2007年実施 BOD 3, 4, 2 (3) HPLC -2, -1, -4 (0)*		適用外物質			

* 分解度の平均値が負の値に算出されたため、0と表記した。

整理番号 K-81B (3-0503)		分解度試験		分解度試験		分解度試験	
3-tert-ブチルフェノール (585-34-2)		事業対象年度 平成16年度		指示年月日		指示年月日	
		試験期間 16.11.26~17.4.15		試験期間 . . . ~ . . .		試験期間 . . . ~ . . .	
		試験装置 (標)・揮		試験装置 標・揮		試験装置 標・揮	
構造式(示性式)・物理化学的性状  分子式 C ₁₀ H ₁₄ O 分子量 150.22		試験濃度		試験濃度		試験濃度	
		被験物質 100 mg/L		被験物質 mg/L		被験物質 mg/L	
		汚泥 30 mg/L		汚泥 mg/L		汚泥 mg/L	
		本試験期間 4週間		本試験期間 週間		本試験期間 週間	
純度*1 99.9%		外観 白色固体		試験結果 間接		試験結果 間接	
不純物*1 (物質名, 含有率) 残り0.1%は不明		溶解度(対水, その他) 対水 1.39 g/L (20℃) 対アセトニトリル 1 g/L 以上		試験結果 直接		試験結果 直接	
		審査部会 第68回 19年10月26日開催		審査部会 第 回 年 月 日開催		審査部会 第 回 年 月 日開催	
融点 43.0℃		1-オクタノール/水分配係数 log Pow = 2.6 (HPLC法)*2		判定		判定	
沸点 241.3℃		加水分解性 pH4, 7, 9 加水分解性なし		備考		備考	
蒸気圧 1.63×10 ⁰ Pa (25℃)		密度		1. 回収率* (水+被験物質)系 100% (汚泥+被験物質)系 100% ※試験液を直接分析機器に導入。 2. 実施機関 ・財団法人 化学物質評価研究機構			
LD50		解離定数 pKa = 10.12 (分光光度法)					
IRチャートの有無 (有)・無							
用途*3 中間物							
生産量*3 (11年) 製造及び輸入 10~100 t 未満							
試料 購入先 東京化成工業 TCI-GR							
経済産業公報発表年月日		年 月 日					

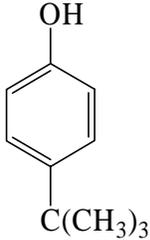
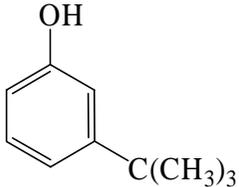
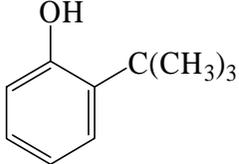
*1 東京化成工業添付資料による。

*2 溶離液:アセトニトリル/りん酸塩緩衝液(pH7.0) (1/1 V/V)

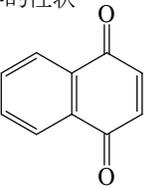
*3 化学物質の製造・輸入量に関する実態調査による。

濃縮度試験					事業対象年度 平成17年度					濃縮度試験					毒性試験	
試験期間					17. 5. 27 ~ 17. 6. 3					試験期間					年月日	
試験装置 標・揮		LC50値 mg/L(hr)魚種()			試験装置 標・揮		LC50値 mg/L(hr)魚種()			依		頼		經過		
水槽設定濃度 ()					水槽設定濃度 ()											
被験物質		分散剤			被験物質		分散剤			第1濃度区		第2濃度区		第3濃度区		
第1濃度区					第1濃度区					第2濃度区				第3濃度区		
第2濃度区					第2濃度区					第3濃度区						
第3濃度区					第3濃度区											
濃縮倍率		脂質含有率 開始前 終了後 % 魚種()			濃縮倍率		脂質含有率 開始前 終了後 % 魚種()									
		日後 日後 日後 日後 日後					日後 日後 日後 日後 日後									
第1	水槽濃度 ()					第1	水槽濃度 ()									
	倍率						倍率									
第2	水槽濃度 ()					第2	水槽濃度 ()									
	倍率						倍率									
第3	水槽濃度 ()					第3	水槽濃度 ()									
	倍率						倍率									
審査部会 第68回 19年 10月 26日 開催					審査部会 第 回 年 月 日 開催											
判定結果					判定結果											
備考					備考											
分配係数から類推																
[実施機関] 財団法人 化学物質評価研究機構																

K - 8 1 Bの類似物質表

化合物名 (CAS 番号)	構造式	官報公示 整理番号 (K- 番号)	分解度 (%)	分解 判定 (年)	分配係数 (log Pow)	LC ₅₀ mg/L (ヒメダカ)	濃縮倍率	濃縮 判定 (年)
<i>p</i> -tert-ブチル フェノール (98-54-4)		3-0503 (K-0081)	標準(2W) 1975年実施 BOD 0, 0 (0) TOC 5, 3 (4) G C 4, 1 (3) U V(273nm) 4, 4 (4) 逆転(2W) 1975年実施 BOD 0, 0 (0) TOC 2, 0 (1) G C 0, 0 (0) U V(274nm) 0, 0 (0)	難分解性 (1975)	1996年実施 3.29	4.0 (48hr)	1976年実施 1区(40mg/L): 20~43 2区(4mg/L): <48~88 脂質含有率 -	高濃縮性 ではない (1976)
3-tert-ブチル フェノール (585-34-2)		3-0503 (K-0081B)	標準(4W) 2005年実施 BOD 0, 0, 0 (0) TOC 0, 0, 0 (0) HPLC 0, 0, 0 (0)		2005年実施 2.6 (HPLC法)		分配係数から類推	
<i>o</i> -tert-ブチル フェノール (88-18-6)		3-0503 (K-81C)	標準(4W) 2005年実施 BOD -3, -4, -4 (0)* TOC 35, 40, 25 (33) HPLC 32, 39, 23 (31)	難分解性 (2007)	2007年実施 3.74 (フラスコ振とう法)			

* 分解度の平均値が負の値に算出されたため、0と表記した。

整理番号 K-606 (4-0372)		分解度試験		分解度試験		分解度試験	
1,4-ナフトキノン (130-15-4)		事業対象年度 平成17年度		契約年月日		契約年月日	
		試験期間 18. 7. 25~19. 3. 22		試験期間 . . . ~ . . .		試験期間 . . . ~ . . .	
		試験装置 ①・揮		試験装置 標・揮		試験装置 標・揮	
構造式(示性式)・物理化学的性状  分子式 C ₁₀ H ₆ O ₂ 分子量 158.15		試験濃度		試験濃度		試験濃度	
		被験物質 100 mg/L		被験物質 mg/L		被験物質 mg/L	
		汚泥 30 mg/L		汚泥 mg/L		汚泥 mg/L	
		本試験期間 4 週間		本試験期間 週間		本試験期間 週間	
純度*1 97.7% (滴定)		外観 黄色粉末		試験結果 間接		試験結果 間接	
不純物*1 (物質名, 含有率) 残り 2.3%については不明		溶解度(対水, その他) 対水 234 mg/L (20℃) (フラスコ法) 対1-オクタノール 1 g/L 以上 対メタノール 10 g/L 以上 対テトラヒドロフラン 10 g/L 以上		試験結果 直接		試験結果 直接	
融点 120.6~125.5℃ (融点範囲)		1-オクタノール/水分分配係数 log Pow = 1.77 (フラスコ振とう法)		審査部会 第68回 19年10月26日開催		審査部会 第 回 年 月 日開催	
沸点 測定範囲(室温~350℃)で 沸点は観察されなかった。		加水分解性 pH4 加水分解性なし pH7,9 測定不可 (高分子化するため)		判定		判定	
蒸気圧 4.65×10 ⁻² Pa (25℃)		解離定数 解離基なし		備考 1. 回収率* (水+被験物質)系 100% (汚泥+被験物質)系 100% ※試験液を直接分析機器に導入。 2. 実施機関 ・財団法人 化学物質評価研究機構 3. 特記事項 ・分解度の平均値が負の値に算出されたため、0と表記した。		備考 ・(汚泥+被験物質)系において被験物質は、6~11%残留し、溶解していた4種の変化物の生成率はいずれも1%未満であった。 ・定性分析の結果、4種の変化物は被験物質の2~3量体程度の分子量であったが構造特定には至らなかった。 ・試験駅に不溶な変化物は、GPCで分子量1000未満成分が検出されなかった。	
比重*2 1.422							
LD50*2 190mg/kg(oral, rat)							
IRチャートの有無 ①・無							
用途*3 アントラキノン製造用原料、医薬品、農薬、脱硫触媒、染料中間体の合成原料							
生産量(年)							
試料 購入先 東京化成工業 TCI-EP							
経済産業公報発表年月日 年 月 日							

*1 東京化成工業添付資料による。

*2 Hazardous Substances Data Bank(U.S. National Library of Medicine)(8/2006)による。

*3 有機化合物辞典(講談社)による。

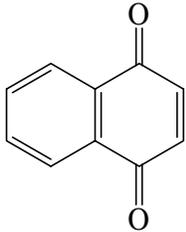
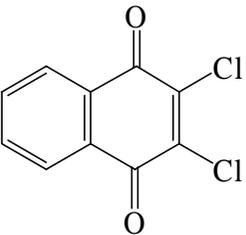
濃縮度試験					事業対象年度 平成18年度					濃縮度試験											
試験期間					18. 5. 22 ~ 18. 7. 7					試験期間					. . . ~ . . .						
試験装置 標・揮		LC50値 mg/L(hr)魚種()			試験装置 標・揮		LC50値 mg/L(hr)魚種()			試験装置 標・揮		LC50値 mg/L(hr)魚種()			試験装置 標・揮		LC50値 mg/L(hr)魚種()				
水槽設定濃度 ()					水槽設定濃度 ()					水槽設定濃度 ()											
被験物質		分散剤			被験物質		分散剤			被験物質		分散剤									
第1濃度区					第1濃度区					第1濃度区											
第2濃度区					第2濃度区					第2濃度区											
第3濃度区					第3濃度区					第3濃度区											
濃縮倍率		脂質含有率			開始前		% 魚種()			濃縮倍率		脂質含有率			開始前		% 魚種()				
		終了後			日後		日後					終了後			日後		日後				
第1	水槽濃度 ()					日後					第1	水槽濃度 ()					日後				
	倍率					日後						倍率					日後				
第2	水槽濃度 ()					日後					第2	水槽濃度 ()					日後				
	倍率					日後						倍率					日後				
第3	水槽濃度 ()					日後					第3	水槽濃度 ()					日後				
	倍率					日後						倍率					日後				
審査部会 第68回 19年 10月 26日 開催					審査部会 第 回 年 月 日 開催					審査部会 第 回 年 月 日 開催											
判定結果					判定結果					判定結果											
備考					備考					備考											
分配係数から類推																					
[実施機関] 財団法人 化学物質評価研究機構																					

毒性試験
年月日

依
頼

経過

K - 6 0 6 の類似物質表

化合物名 (CAS 番号)	構造式	官報公示 整理番号 (K-番号)	分解度 (%)	分解 判定 (年)	分配係数 (log Pow)	LC ₅₀ mg/L (ヒメダカ)	濃縮倍率	濃縮 判定 (年)
1,4 - ナフトキノ (130-15-4)		4-0372 (K-606)	標準(4W) 2007年実施 BOD -7, -6, -8 (0)* TOC 49, 50, 48 (49) HPLC 90, 93, 87 (90)		2006年実施 1.77 (フラスコ振とう法)		分配係数から類推	
2,3 - ジクロロ - 1,4 - ナフトキノ (117-80-6)		4-0378 (K-270)	標準(2W) 1976年実施 BOD 0, 0 (0) G C 5, 5 (5)	難分解性 (1977)	2002年実施 2.83 (フラスコ振とう法)		分配係数から類推	高濃縮性 ではない (2002)

* 分解度の平均値が負の値に算出されたため、0 と表記した。

整理番号 K-663B (2-0184)		分解度試験		分解度試験		分解度試験	
ジデシルジメチルアンモニウムクロリド (7173-51-5)		事業対象年度 平成18年度		契約 年 月 日		契約 年 月 日	
		試験期間 18.11.6~19.3.12		試験期間 . . . ~ . . .		試験期間 . . . ~ . . .	
		試験装置 (標) ・ 揮		試験装置 標 ・ 揮		試験装置 標 ・ 揮	
構造式 (示性式) ・ 物理化学的性状 $\begin{array}{c} \text{CH}_3 \\ \\ \text{H}_3\text{C}-\text{N}^+-\text{(CH}_2\text{)}_9-\text{CH}_3 \text{ Cl}^- \\ \\ \text{(CH}_2\text{)}_9-\text{CH}_3 \end{array}$ 分子式 C ₂₂ H ₄₈ ClN 分子量 362.08		試験濃度		試験濃度		試験濃度	
		被験物質 100 mg/L		被験物質 mg/L		被験物質 mg/L	
		汚泥 30 mg/L		汚泥 mg/L		汚泥 mg/L	
		本試験期間 4 週間		本試験期間 週間		本試験期間 週間	
		試験結果		試験結果		試験結果	
純度*1 ①95.6% ②99.9%	外観 淡黄色固体	間接 BOD -3, -2, -2 (0)%	間接	間接	間接	間接	間接
不純物*1 (物質名, 含有率) ① 2-プロパノール 4.4% ② 2-プロパノール 0.1%	溶解度 (対水, その他) 対水 300g/L 以上 (目視による) 対メタノール 10g/L 以上	直接 LC-MS 0, -1, -1 (0)%	直接	直接	直接	直接	直接
融点 46.4℃ (融解ピークの頂点の温度)	1-オクタノール/水分配係数	審査部会 第68回 19年10月26日開催		審査部会 第 回 年 月 日開催		審査部会 第 回 年 月 日開催	
沸点 173.1℃		判定		判定		判定	
蒸気圧 5.43×10 ² Pa (25℃)	加水分解性 pH4, 7, 9 加水分解性なし	備考 1. 回収率 (水+被験物質)系 99.6% (汚泥+被験物質)系 99.4% 2. 実施機関 ・財団法人 化学物質評価研究機構 3. 特記事項 ・分解度の平均値が負の値に算出されたため、0と表記した。 ・被験物質は全有機炭素計の配管に吸着することが認められたため、TOCによる分解度は算出できなかった。		備考		備考	
密度	解離定数						
LD50							
IRチャートの有無 (有) ・ 無							
用途*2 合成樹脂、洗剤等、殺虫剤殺菌剤等、潤滑油、切削油等、添加剤 (繊維用、ゴム用、樹脂用) 色素、触媒							
生産量*2 (16年) 製造及び輸入 1,000~10,000 t 未満							
試料*3 購入先 和光純薬工業							
経済産業公報発表年月日	年 月 日						

*1 HPLCによる。 *2 化学物質の製造・輸入量に関する実態調査による。
①分解度試験 ②濃縮度試験

*3 試料を混合し、試料中の2-プロパノールをエバポレーターで留去した試料を被験物質として使用した。

事業対象年度		平成18年度						依 頼	毒性試験
試験期間		18. 11. 20 ~ 19. 3. 14							年月日
試験装置 (標)・揮	LC50値 0.707 mg/L(96hr)魚種(ヒメダカ)								
水槽設定濃度 (μg/L)									
	被験物質	分散剤						経過	
		2-メトキシエタノール							
第1濃度区	5								
第2濃度区	0.5								
第3濃度区									
濃縮倍率 脂質含有率 開始前 3.75% 魚種(コイ) 終了後 5.79%									
		7日後	14日後	21日後	24日後	28日後	49日後		60日後
第1	水槽濃度(μg/L)	4.43	4.44	4.37	4.36	4.74	4.56		4.45
	倍率	67	140	180	130	55	81		70
第2	倍率	81	130	130	61	59	61	54	
	水槽濃度(μg/L)	0.469	0.479	0.464	0.411	0.476	-	-	
第2	倍率	95	47	71	52	52	-	-	
	倍率	92	77	90	65	57	-	-	
第3	水槽濃度()								
	倍率								
審査部会 第68回 19年 10月 26日 開催									
判定結果									
備考									
[定常状態における濃縮倍率] 第1濃度区 63倍									
[ばく露期間における濃縮倍率] 第2濃度区 47~ 95倍									
[回収率]			[定量下限濃度]						
			試験水 第1濃度区 0.25 μg/L						
			第2濃度区 0.025μg/L						
供試魚 73.3%			供試魚 17 ng/g						
[実施機関] 財団法人 化学物質評価研究機構									